

ワーキングプアについて

・現状

ワーキングプアとは、公的扶助を受けず就業しているが、資産や所得が低いなどの理由から、最低水準の生活から抜け出せずにいる「働く貧困層」のことである。日本において、相対的貧困と言われるのは年間所得 122 万円以下の生活であるが、ワーキングプアの場合は 200 万円以下が目安とされている。月収にすると 16 万程度であり、実家暮らしであれば余裕のある生活ができるが、一人暮らしだとある程度の節約が必要になる。また、貯金ができず、結婚・子育てにかかる費用を考えると、家族を養う負担が大きい。日本では、就業者の 34%にあたる 2256 万人、民間サラリーマンでは 12 年連続で 1000 万人を超える 5 人に 1 人がワーキングプアの状態である。この割合は先進国の中でも高く、非正規雇用の増加が原因である。女性の非正規労働者の場合、83.9%がワーキングプアである。子育てなどで非正規でしか働けないという理由が多く、家庭的責任を女性が負っている制度的な貧困である。さらに母子世帯では、就労率 81.8%に対し、5 割が貧困状態という深刻な現状がある。これには養育費制度や労働環境の問題などが関係しているが、詳しくは子ども・女性班の報告書に記載する。就職氷河期世代では 389 万人の非正規のうち、約 75%がワーキングプアの状態である。自営業の場合は、54%がこれにあたる。フリーランスなどの雇用関係によらない働き方が増えてきた一方で、実態は名ばかりの請負状態になっているケースが多い。

・政策

こうした現状に対し、2020 年 4 月から正規・非正規の同一労働同一賃金制度が開始され、最低賃金が引き上げられる。男女賃金格差に対しては、女性の正社員化や処遇改善を目指す「すべての女性が輝く政策パッケージ」が、氷河期世代に対しては、正規雇用 30 万人増を目指す「骨太の方針 2019」が推進されている。